

田丸雅智 ショートショート作家

ショートショートという形式の小説を専門に書く「ショートショート作家」として活動をしています。ショートショートとは簡単にいうと「短くて不思議な物語」、もっというと「アイデアがあり、それを活かした印象的な結末のある物語」のことです。

ぼくはふだん、自作の執筆と並行して、このショートショートの普及のためにいろいろな活動を行っています。そのひとつが、全国各地で開催しているショートショートの書き方講座。90分ほどの時間内でアイデア出しから作品完成、発表までを行うというもので、メソッドに従って進めていけば誰でもショートショートが書けるようになっています。参加者は、のべ2万人以上。年齢も小学一年生くらいからシニアまで幅広く、企業や少年院などでも開催していたりします。

その講座を八戸ブックセンターさんで開催させていただいたのは、2019年の2月のことでした。青森は旅行で訪れたことがありましたが八戸は初めての訪問で、想像よりも雪がずいぶん少なくて驚いたことを覚えています。サバがおいしかったことも印象に残っていて、特にサバ料理専門のお店で食べたサバ尽くしのコースは絶品でした。

肝心の八戸ブックセンターさんの店内もとても素敵で、講座の前後で棚をじっくり眺めて読書心を大に刺激されました。そんな中でも驚いたのが「カンヅメブース」の存在です。作家登録をすれば利用可能な執筆のためのブースということで、遊び心に魅了されつつ、こんな場所が近くにあれば自分の原稿もはかどるのになあと憧れを抱いたものでした。

さて、話を戻して講座のことを。

講座は2019年に加え、2020年12月にも二日にわたって計3回開催させていただきましたが、いずれの回でも参加者のみなさんはすばらしい作品をたくさん生みだしてくださいました。

たとえば、一般の方を対象にした回では、親指になりたい小指のお話や、かつて生物兵器だったという鱗のある犬のお話。川を走る貨物列車のお話に、万年筆が風邪を引くお話など。

高校生を対象にした回では、制服がイルミネーションになるお話や、委員長を各星に送り込んでいるという委員長惑星のお話、水でできたあひるのお話など。

いかがでしょう？ いずれの作品も内容が気になってきて、読んでみたくなりませんか？

そんなお声はスタッフや参加者の方からも多く聞かれ、2020年の講座では満を持して講座の作品集の制作も行われました。収録作がすばらしいのはもちろんのこと、イラストも入ったりして本当に

かわいい作品集に。今後も二巻、三巻とつづいてって、いつか店内に作品集の棚ができたならなあと空想したりしています。

今後の空想の話で言えば、単発の講座のみならず、定期講座も開催させていただけたらいいなあとひそかに思っています。各所で開催しているこの定期講座では、参加者のみなさん同士でアイデアをワイワイ広げ合う「アイデアセッション」や、作品の感想をポジティブに伝え合う「感想会」があり、手前味噌で恐縮ですが、さらに楽しさ満載なんです。八戸ブックセンターのみなさん、ぜひご検討いただけましたら!(笑)

それはさておき、この講座がきっかけになって、八戸の地にもショートショートがどんどん広がっていくことを願っています。そして、その輪の中からプロのショートショート作家が生まれることも。

八戸組のプロのみなさんは、新作をどんどん発表してくださりそうな予感を勝手にビシビシ感じている今日この頃です。

何しろ、八戸にはすばらしきカンヅメブースがあるのですから。

田丸雅智 masatomo tamaru

ショートショート作家

執筆・出版ワークショップ「超ショートショート講座」(2019・2020)

フリーペーパー「ほんのわ」(2021)

1987年愛媛県生まれ。東京大学工学部、同大学院工学系研究科卒。2011年『物語のルミナリエ』に「桜」が掲載され作家デビュー。全国でショートショートの書き方講座を開催するなど幅広く活動。著書に『海色の壘』(双葉社)、『おとぎカンパニー』(光文社)など。

